

# 適期の穂肥施用と水管理徹底で 食味・品質向上

～ 管内の生育状況(7/10現在) ～

【草丈】並～やや長い 【莖数】並 【葉数】やや多い 【葉色】並～やや濃い

～出穂予想～ 前年並み

ほ場	移植日	出穂予想
気象感応ほ(藪神)	5/23	8/6
品質向上実証ほ(藪神)	5/20	8/5

出穂期とは「出穂すると思われる茎の40～50%が出穂した日」です。  
(全ての穂が出た日ではありません)

※出穂予想は随時変更されます。最新の出穂予想を携帯メール稲作情報で配信しますので、最新情報を活用してください。



## 穂肥1回目は出穂18日前に「基準量施用」で収量安定化

- 散布時期: **出穂18日前(主茎幼穂長: 1cm)** 必ずほ場で幼穂長を確認しましょう
  - 散布量: **窒素成分1.0kg/10a** (魚沼ロマン有機穂肥の現物散布量: 10kg/10a)
- ※ 1回目は、地力、葉色から勘案し施用しましょう。(葉色が下がっている場合は「早め・強め」等)

### 【出穂18日前(主茎幼穂長: 1cm)の生育指標】

草丈 75cm以下  
 莖数 430本/㎡ (60株植え: 24本/株、50株植え: 28本/株)  
 葉色 3.5以下 (葉色板 群落)

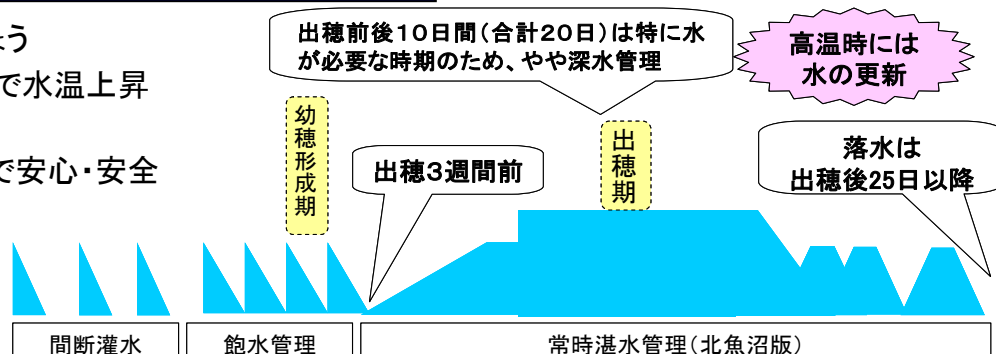
## 穂肥2回目は出穂10日前に「しっかり施用」で食味・品質向上

- 散布時期: **出穂10日前(主茎幼穂長: 8cm)**
  - 散布量: **窒素成分1.0～1.5kg/10a** (魚沼ロマン有機穂肥の現物散布量: 10～15kg/10a)
- ※ 葉色が濃い場合は散布量を控える。  
 ※ 2回目の施用が遅れると食味を落とす可能性があるので注意!

★ 基肥一発肥料でも出穂期の葉色の低下が見込まれる場合は、穂肥を施用しましょう

## 水管理の徹底で食味・品質向上

- 湛水状態で穂肥を施用しましょう
- 高温時は深水管理・水の更新で水温上昇の防止
- 出穂3週間前からの常時湛水で安心・安全な良食味・高品質米生産
- 後半までしっかり水をかけて胴割れ防止



※ 穂肥診断等の詳しい資料は指導会資料(営農センター、振興局HP等)をご覧ください。携帯メール会員募集! 営農センターへお問い合わせください。